



南房総の風

発問計画で授業が変わる

子供を授業で本気にさせるには、教材や問題の工夫や教師の関わり方が重要です。昔から「ゆさぶり」や「切り返し」を巧みに操るテクニックがあります。今回は、発問のテクニックや特別支援教育の視点から授業改善に迫ります。

文科省のWebページより

- 1 発問の要件 ○何を問うているのかがはっきりしていること ○簡潔に問うこと
○平易な言葉で問うこと ○主要発問は、準備段階で「決定稿」にしておくこと
- 2 “ゆさぶる発問” ○広義には、子供達の学習に変化をもたらす緊張を誘う発問のこと
- 3 「質問」か「発問」か ○「質問」は子供が本文を見ればわかるもの
○「発問」は子供の思考・認識過程を経るもの

発問例

- | | | |
|--------------------------------------------------|----------------------------------------------|-----------|
| 「どうしてそう考えたの？」 | →考えや解き方をさらに具体的に表現させる。 | (切り返し) |
| 「本当にそう?」「私は、Bだと思う。」 | →全体が安易にAの考え(意見)に流れたとき、深めさせる。 | (ゆさぶり) |
| 「桃太郎は、血も涙もない欲張りな人ですね。」 | →子供達は、あらためて桃太郎の人間像を考える。 | |
| 「つまり要旨は、…ですね。」
(選択肢の中の誤答にあたるものを提示する。) | →子供達は、その段落の内容を思い出して要旨を確認し、以降の段落を注意深く読むようになる。 | (誤答でゆさぶり) |
| 「 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$ です。」 | →まちがいをを見つけ、正しい方法を確認する。まちがえた子供も理解する。 | |
| 「もし~なら、どうなるでしょう?」 | →別の視点(方法)で考えさせる。 | (仮定でゆさぶり) |
| 「前に学習したことが使えるよ。」 | →既習内容をふり返らせて活用させる。 | (ふり返り) |
| 「3つの方法(考え)の共通点は何ですか?ちがいは何ですか?」 | →考え方を整理して、根本を押さえる。 | (方法の追究) |
| 「Aさんはなぜ~な表現(絵・言葉・式など)をしたのですか?」 | →Aさんの立場で考えを理解する。 | (表現の読み取り) |
| 「まず何をすればいいですか?次は何がポイントになりますか?」 | →視点等を明らかにして、方向性を定める。 | (プロセスの確認) |
| ▲「迫力ある曲ね。どうでしたか?」 | →子供が気付くべきことを教師が言ってしまう、子供の思考を妨げてしまう。 | |
| ▲反応が返ってこないうちに、矢継ぎ早にちがう発問を重ねる。 | →子供の思考が追いつかない。 | |



学習指導案に発問計画を入れていますか?

指導案検討では、ベテランが経験からその発問に対するアドバイスをしやすくなります。また子供の反応予想をすることで、補助発問や切り返しなどを準備して、思考を深める授業を作ることにつながります。上記のテクニックを確認することもできます。特に若手にとって、発問計画の大切さが実感できると思います。そして積み重ねることで、子供を引きつける授業力が身につけてきます。